

● 初夏のクモの観察

<ジョロウグモのまどい>

フェンスのところにジョロウグモの団居(まどい)があります。

みなさん注目してください。息を吹きかけて見ましょう。

まさに“クモの子を散らす”ようです。またしばらくすると集まってきます。何か集合フェロモンでもあるのでしょうか。



ジョロウグモのまどい

ジョロウグモは卵囊の中で卵から孵って1齢になります。もう一回脱皮して2齢になってから卵囊を出ます。

今、まどいをしているのは2齢で、この時期はまだ口器が発達していません。それで共食いはしません。

もう一回脱皮をして3齢になったら、枝の先などに登り、お尻から糸を出して風と共に空中分散していきます。3齢の時には共食いをすることがまれにあります。

ここに、もう小さな網を張っているジョロウグモがいます。他から空中旅行してきたのでしょうか。



ゴミグモ 写真のどこにいる？



コガネグモの幼体

<フェンスのクモ探し>

このフェンスにどんなクモがいるか、一緒に見つけてみましょう。

網を張るクモがここに多いということは、フェンスというがっしりした造網空間があることと、餌が多いことを意味します。

あちこちにクサグモの網があります。餌となる小昆虫が多いんですね。

小さなワキグロサツマノミダマシが網を張っています。近くにサツマノミダマシがいます。

似たような生活をするクモは発生時期をずらしているようで、先にサツマノミダマシが出現します。

あっ、これは擬態するクモですね。松の葉にそっくりな、オナガグモです。

このゴミの中に隠れているクモは、ゴミグモです。

この黄色と黒の横縞模様があるのはコガネグモです。良い草原の指標生物になります。

このコガネグモはいま幼体で、これからどんどん大きくなり、大きな円網を張ります。網には大型の昆虫が掛かります。（浅間茂）